

# 令和8年度 品川区立大井第一小学校 グランドデザイン

## 基本理念

- I. 「公立学校」として果たすべき役割と責任をふまえる  
・品川区教育振興基本計画「品川区教育ビジョン」の具現化を図り、公教育の専門機関としての機能をより一層高めるとともに、教育の質のさらなる向上を図る。
- II. 「大井第一小学校」として果たすべき役割と責任をふまえる  
・教育内容や指導方法などへの常に高い関心とステータスのある教育が期待されている。その負託に応えるべき高い学力と規範意識のほか、探究的で発展的な学習を実践する。
- III. 「我が国の教育改革の方向」をふまえる  
・変化の激しい社会において主体的に逞しく生きるための資質・能力や社会の一員として責任を果たすべく基礎となる力を、本校の独自性を強く打ち出しながら育成する。学習指導要領の改訂に向けた動向に注視する。

## 現状と課題

- 【現状】**
- 保護者から「選ばれる学校」であり、毎年抽選校となっている。全学年4学級として常に安定している。
  - 6割以上の児童が国公立私立中学校に受験し進学する。
  - 規範意識が高く、自ら考え行動できる児童が多い。
  - 基本的な生活習慣が身に付いている児童が多い。一方、体力や精神的な面でたくましさややや欠ける姿も見られる。
  - 学校教育活動に理解をいただき、協力的な保護者が多い。PTA活動は「できること」を「できる範囲」でという方針になり、クラス委員制度は昨年度から廃止した。
- 【課題】**
- △安定した学級・学年経営は具現化されてきているが、低学年において一部規律が整わないことがある。指導体制の充実（エデュケーションアシスタントの活用）を図りながら、学習環境を整える。
  - △あいさつや礼儀など、学年の発達段階に応じて指導している。あいさつの響く学校になるよう今後も継続した指導が必要である。
  - △どのような中学校・高等学校に進学しても通用する学力と自ら粘り強く学んでいく態度の育成を図る。
  - △「大一ABC」は学年が上がるにつれ浸透してきているが、姿勢の保持が課題である。学習に向かう姿勢を今後も継続して指導していく。

## 教育目標

- 自ら課題を見つけ判断し、豊かに実現しようと学ぶ子 **「考える子」**
- 困難にくじけず仲間と共に挑戦し、高め合い、絆を深める子 **「思いやりのある子」**
- 粘り強く積極的に行動し、知識を生きる知恵にできるたくましい体をもつ子 **「健康な子」**

## 未来を切り拓く力が育つ学校

### 学校経営の基本方針 「私が育てる」から「私たちが育てる」学校

- (1) 「私たちが育てる」学校、開かれた学級にする。  
→教科担任制、教科分担任制、課題別学習、交換授業などを計画的に実施
- (2) 子どもに開いた、楽しい、生きがいのある学校にする。  
→優しさと厳しさ、受容・共感・肯定、思いやりと協力、豊かな発想と工夫、充実と活力、友達と遊び、心と知識・科学の調和など
- (3) 教職員に開き、協働して活動する学校にする。  
→教員一人一人のよさを認め合いながら高めていく教員集団
- (4) 保護者に開いた、親しみのある学校にする。  
→情報の共有化と発信、ボランティア等の協力体制（CS）など
- (5) 地域に根ざした学校にする。  
→地域協力者（地域は先生）、地域の活用（地域は教室）、歴史・文化・産業・生活の学び（地域は教材）など

## 教職員の基本姿勢

- ◆「時を守り」「場を清め」「礼を正す」の3点を基本姿勢とする。
- (1) 「子ども第一主義」
    - 居心地のよい生活環境・学習環境を整える ○「いじめ・いじわる・いやがらせのない学校」を心がける ○子ども一人一人が主体的に活躍できる場を工夫する
  - (2) 子どもの「人間のモデル」としての教職員
    - 教育公務員としての自覚（服務規律の遵守）を堅持する
    - 豊かな人権感覚を備えた人間としてのモデルとなる
  - (3) 指導力、授業実践力の向上
    - 校内研究に勝る研修の場はない。目の前の子どもの姿に学ぶ
    - 日々の職務を通して学ぶ姿勢を大切にする

## 学力の定着と向上

- ① 学習規律の確立  
・「大一ガイド」「大一ABC」に基づいた授業規律、学習スキルを系統的に指導し徹底する。
- ② 個に応じた指導  
・算数科において習熟度別少人数指導、T・Tを行い、個に応じた授業を展開する。
- ③ 基礎・基本の確立  
・朝学習（週2回程度）の実施により読書をはじめ漢字や計算のさらなる習得を図る。  
・放課後の補習として「すすくすくスクール」を定期的実施。また学期末個別指導（7、12月）を設定し、さらなる学力の定着を図る。
- ④ 教科担任制の導入  
・4年生以上では理科・社会を中心に、より専門的な指導を行う。
- ⑤ 英語学習の充実  
・学校支援地域ボランティア（英語読み聞かせ）との連携やJTEの活用を図りながら、より専門的な英語学習を展開する。
- ⑥ 読書活動の充実  
・学校支援地域ボランティアの読み聞かせや読書週間などを積極的にを行い、読書活動の充実を図る。

### 大一が目指す3つの資質・能力

- 「思考・対話」「協働・創造」「社会・共生」**
- ① ICTの活用  
・各教科の学習成果を「学びのアルバム」として保存していくことで大きな振り返りを行い、資質・能力について自分の成長を自覚する。
  - ② 教科横断的な学びの実現  
・3つの資質・能力を育成する単元を全学年意図的に設定し、計画的、系統的に実施できるようにする。またパフォーマンス課題や答えのない問いを設定する。
  - ③ 探究的な学びの実現  
・1、2年生は生活科、3年生以上は市民科一貫プランにおいて実施する。探究学習発表会でその成果を披露する。

## 豊かな人間性・社会性の育成

- ① 生活指導の徹底  
・「大一ガイド」に基づき、家庭とともに連携を図りながら指導する。特に集団行動や「時を守り」「場を清め」「礼を正す」の指導を徹底する。
- ② 市民科学習の充実  
・子どもたちの実態に応じた市民科指導計画を作成し、日常的実践力につながる指導を工夫する。
- ③ 様々な人から学ぶ授業の推進  
・読書、英語ボランティア、外部の人から学ぶ授業を積極的に取り入れ、人間性や社会性の育成を図る。
- ④ 体力の向上  
・各種体力向上にかかわるチャレンジ活動を積極的に取り入れ、授業以外でも体を動かす大切さを理解し習慣をつける。